



# 学校だより

3月号  
横浜市立桜台小学校  
令和2年3月2日発行

## 人を遺す ～故 野村克也氏に捧ぐ～

校長 小宮 健

令和元年度もいよいよ残りひと月となりました。3月19日（木）には79名の卒業生が6年間の思い出と未来への夢と希望を胸に本校を巣立っていきます。立派に成長した姿を笑顔で見送りたいと思います。

また、平成17年から長きに渡り、登下校時における児童の安全のために、酷暑の日も極寒の日も、雨風の強い日も子どもたちを温かく見守っていただいている学援隊の皆様方のご尽力と顕著な功績が横浜市教育委員会から表彰され、西部学校教育事務所長から感謝状が贈られました。全校児童を代表して卒業前の6年生からも感謝の気持ちを伝えることができました。

本年度も本校の教育活動に地域・保護者の皆様のご理解・ご支援を賜りまして心から感謝いたします。令和2年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

去る2月11日、世の中に偉大な功績を遺（のこ）された野村克也氏が逝去されました。連日、教え子である現役選手やOB、関係者が語る思い出のエピソードが報じられ、日本球界において、また野球という枠を超えた「人を育てる」指導者として、いかに野村氏の存在が大きかったか実感させられました。

今から20数年前の勤務校でお世話になっていた校長から、「最近、ノムさんの本を読んでいるのだけれど、納得する内容ばかりだ。『チーム』を『学校・組織』に『選手』を『教職員』に置き換えるとすべてがあてはまってとても勉強になる。小宮さんは『チーム』を『学級・学年』に『選手』を『子ども』に置き換えて読んでみてごらん下さい」と、野村氏の著書を手渡されたことを思い出します。当時、プロ野球で日本一となったチームの指揮官として野村監督の手腕が大変評価され、「名選手、名監督にあらず」という言葉を覆すとともに、選手を甦らせていく指導力は「野村再生工場」と表現されるほどでした。現在、米大リーグで活躍を続ける田中将大投手は亡き恩師の訃報を受け、「プロ1年目で野村監督と出会い、ご指導いただいたことは、僕の野球人生における最大の幸運の一つです」と語っていました。

今改めて、学校経営に相通ずる“野村語録”を噛みしめ、ここにいくつか書き留めてみました。

- ・ 心が変われば人生は変わる。 ・ 一番大事なのは「感性」である。
  - ・ 「失敗」と書いて「成長」と読むことにしている。 ・ 「努力」は天才に勝る。
  - ・ 「失敗」の根拠さえ、はっきりしていればいい。それは次につながるからだ。
  - ・ 「どうするか」を考えない人に、「どうなるか」は見えない。
  - ・ 「恥ずかしい」と感じることから進歩は始まる。
  - ・ 人間の才能なんて、どこに隠されているか分からない。
  - ・ 監督やコーチは「気づかせ屋」である。
  - ・ 指揮官が力を発揮できる最大唯一の媒介は「言葉」である。
  - ・ 人を育てるということは、つまり「自信」を育てるということでもある。
  - ・ 組織はリーダーの力量以上には伸びない。
  - ・ 組織に必要なのは、言いにくいことを口にしてくれる人である。
- ☆ リーダーの究極の仕事は「人を遺す」ことである。



「生涯一捕手」

謹んで哀悼の意を表します。